

あとがき

筆者は、子供のころから鉱石ラジオや真空管式ラジオを組み立て、アマチュア無線の送信機・受信機を真空管で製作し、また、職を得た後はカラーテレビジョン放送が開始されて間もない事もあって、白黒テレビジョン受信機やカラーテレビジョン受信機の技術を学び、普及活動とともに関連業界の技術指導や現場での修理に励んだことが思い出されます。

執筆を終わり、改めて読み直して見ると多種多様の真空管が作られ使われたものだと感心させられます。これらは、それぞれの時代の最先端技術と努力で生み出されたもので、当時の技術者の方々の苦労が伺われます。今後、ますます技術が進歩し予測も付きませんが、真空管やその回路技術が有って現在があることは確かです。

筆者は、テレビジョンなどの放送受信の仕事を永年やってきたので、見てきた事や経験してきた事を記録し、将来、後輩やテレビジョン受信機や真空管に興味を持たれた方々が、レガシーとして参照できるような冊子とDVDの形にすることとしました。（インターネットでの発信は、ホームページを永久に維持しなければなりません。）

パートⅠ（真空管とその回路）およびパートⅡ（真空管/ダイオードの写真）を通して掲載した真空管は、実物をコレクションし写真を撮影（全体像、一部拡大、通電状態、出来るだけ元箱付き）しました。（素人写真なので、写真にバラツキがありますが、ご容赦願いたい。）

コレクションした真空管は、テレビジョン用を始めとして無線用などその数は5,000本を超え、自宅での收藏に困難を極めていました。

この中からテレビジョン用の真空管762本+ダイオード38個（メーカーが異なる真空管を含めて約1,000本）を、関連文献・資料とともにできるだけ散逸しない方法で保存して頂ければということで、高柳先生ゆかりの静岡大学「高柳記念未来技術創造館」にご收藏いただきました。

本資料と共に、電子工学の分野を目指す方々のお役に立てれば、望外の幸せです。

著 者